



STEP 3 水は海に返る

まちの誇りを守るために

Interview

荒尾干潟保全・賢明利活用協議会では、干潟や鳥を守るための清掃活動のほか、干潟を持続的に有効活用するために日々知恵を出し合っています。鳥は環境のバロメーターです。鳥がいるということは餌となるプランクトンなどが豊富だということです。そして、プランクトンがいるということは海がきれいである証拠です。下水道ができる前は、プランクトンを餌にしている魚が死んでしまったり、海岸の砂を触ると手が荒れたりしていました。2年前、荒尾干潟はラムサール条約湿地に登録されました。私たちのまちの誇りだと思います。美しい干潟を守るためにも、廃油でせっけんを作るなど環境に優しい生活を送ってほしいですね。



荒尾干潟保全・賢明利活用協議会委員
にしじまよしあき
西島美明さん (牛水上)



◆写真は有明海に沈む夕日。(撮影場所：蔵満海岸)

今までも、私たちが享受してきたように、これからもきれいな水を未来に残すため、自然を守っていかなければなりません。てんぷら油などを下水に流さない、台所の溜めますは定期的に清掃するなど、少しずつ無理なくできることから実践し、次の世代にきれいな水を残していきましょう。

使った水がそのまま川に流れ、海に流れ込んでしまったり：川や海から悪臭や虫が発生し、不衛生な状態になってしまいます。そして、水の生き物や私たちの健康にも影響が出てしまいます。一度汚れてしまった水を元に戻すことはとても大変なことです。500mlのてんぷら油を水で薄めて魚がすめる水質にするためには、10万lもの水が必要です。

私たちは自然の中で循環している水を使って生活しています。下水道は安心・安全な水を家庭に送り、下水道は家庭や工場で汚れた水をきれいに海に返しています。

Interview

青い海を未来に残すために



三池海上保安部
うみまるくん
(海上保安庁マスコットキャラクター)

三池海上保安部は有明海と島原湾の海の安全を守っています。海難救助などのほか、海の自然環境を守る活動も行っています。20年前から、荒尾第一小学校の児童と打越海岸の清掃活動を続けています。子どもたちに海を身近に感じてもらい、青く美しい海を未来に残すにはどうすればいいか考えて、実践してもらえたらと思います。以前は、工場などから黄色や茶色の汚水が流されることもよくあり、有明海も汚れていました。下水道が整備されてからは、市民の皆さんの努力もあり、有明海も元の美しい姿に戻りつつあります。これからも一人一人が心掛けて、未来に美しい海を残していきましょう。